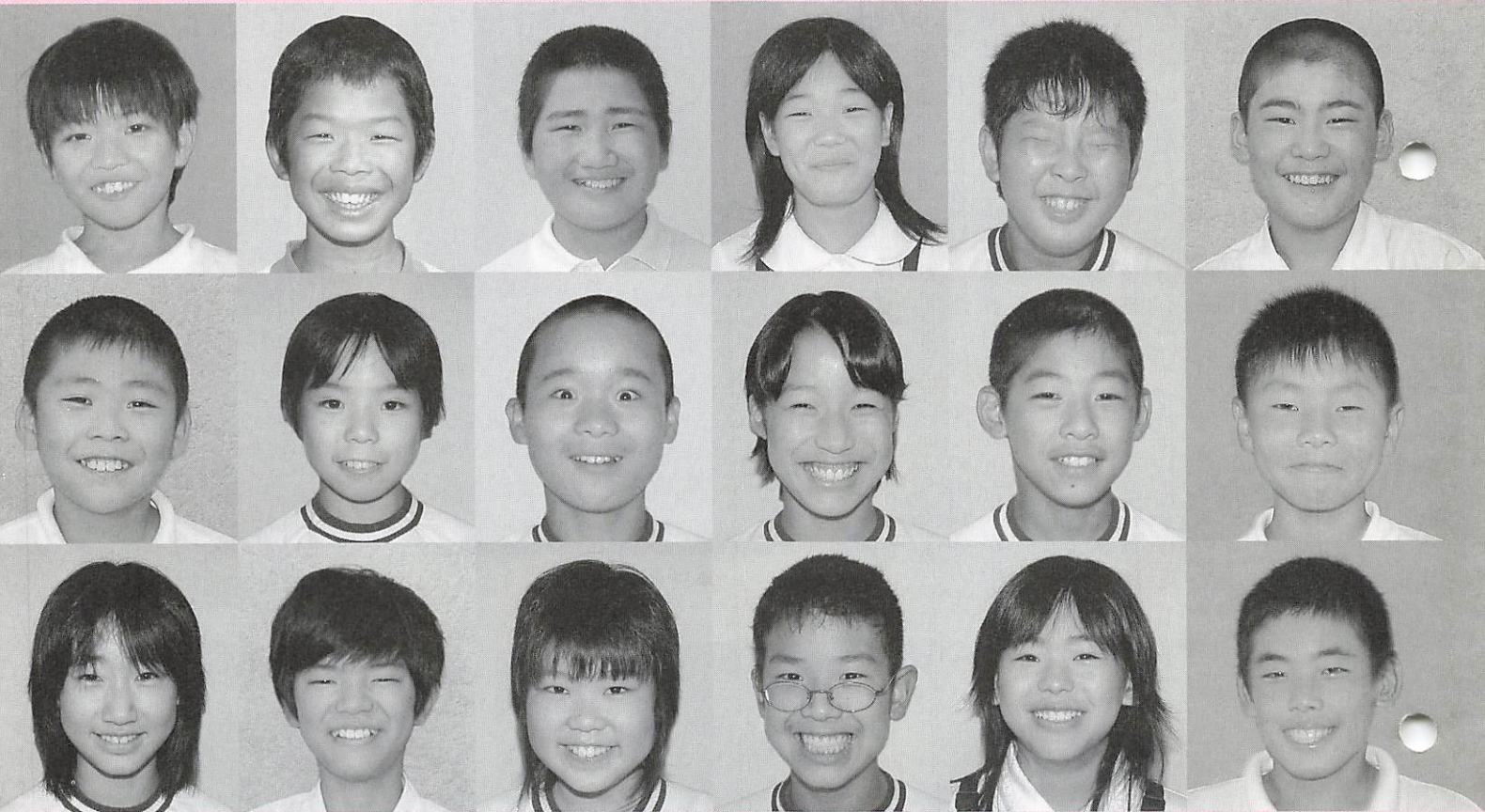


平成17年  
最終号

= No.600 =



# 希望に満ちた 新山口市へ

## 主な内容

- 2 3 徳地町の歴史に幕 町制施行50周年記念式典とともに閉町式を挙行
- 4 5 徳地町が歩んだ半世紀
- 6 山口市徳地総合支所庁舎のご案内
- 7 閉町のごあいさつ
- 8 編集後記



# 歴史に幕

## とともに閉町式を挙行



### 更なる発展を誓って

昭和三十年四月一日に佐波郡北部の五ヶ村が合併し、「徳地町」として町制を施行以来五十年を迎えました。

その長い歴史を振り返るとともに、新山口市の中における徳地地域の今後の飛躍を誓って、町制施行五十周年記念式典並びに閉町式が九月二十三日、町文化ホールで盛大に挙行されました。

当日は、多くの町民の方や来賓の方など約五百人が出席しました。

式典では、君が代斉唱、町民憲章唱和の後、伊藤町長が式辞を述べ、続いて吉松議長によるあいさつが行われました。

このほか、これまで町政の発展に寄与された皆さんに対する表彰や、町制施行五十周年記念作文優秀作品の発表な

九月二十三日に町文化ホールで「徳地町制施行五十周年記念式典並びに閉町式」が行われました。

徳地町は、平成十七年九月三十日をもって閉町し、十月一日からは新山口市が誕生します。



▲伊藤町長式辞

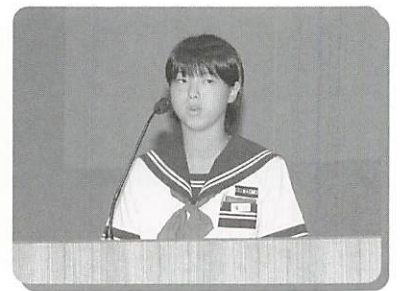
#### ▼町制施行50周年記念作文優秀作品発表



▲柚野木小学校  
5年 宮正 陽平さん



▲吉松議長挨拶



▲町民憲章唱和  
堀中学校 3年 塩川 裕香さん



▲佐波高等学校  
2年 津田 真美さん

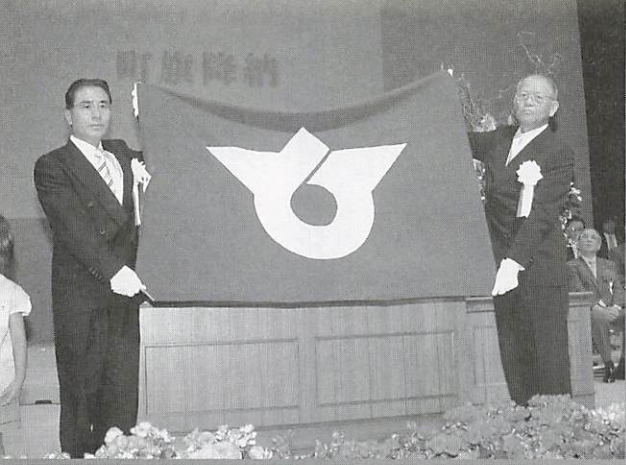


▲堀中学校  
3年 齊藤 和真さん



▲功労者表彰





▲町旗降納

# 徳地町の

## 町制施行50周年記念式典



▲八坂小児童による重源太鼓の演奏

いづまでも忘れられない心のふるさと

どが行われました。また、町旗が降納されると、参加された方々は町への別れを惜しんでいました。

最後に山口県町村会長の発声で万歳三唱が行われ、徳地町制施行五十周年記念式典並びに閉町式の幕を閉じました。

式典後に行われたアトラクションでは、八坂小の児童による重源太鼓の力強い演奏やテレビでお馴染みの鈴木史朗さん

による講演が行われ、会場は感動と笑いに包まれました。

最後に佐波高等学校吹奏楽部の演奏に合わせて、「徳地町民歌」や「世界に一つだけの花」「故郷」を「合唱団とくちのみなさん」とともに参加者全員が合唱しました。

町民の誰もが思い出を胸に、徳地町の歴史は平成十七年九月三十日、静かに幕を閉じます。



▲テレビでお馴染み鈴木史朗さんの講演



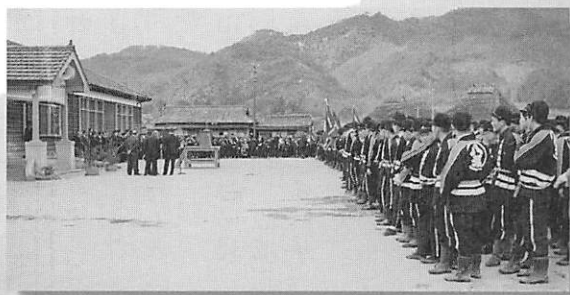
▲佐波高等学校吹奏楽部の演奏に合わせて全体合唱



# 徳地町が歩んだ半世紀



▲昭和30年 徳地町合併記念式典



▲昭和31年 町消防団初の消防出初式



▲完成間近の佐波川ダム



▲昭和45年 第1回防府読売マラソン大会



▲昭和39年  
防石鉄道が45年の歴史を閉じる

- 昭和30年
- 昭和31年
- 昭和32年
- 昭和33年
- 昭和34年
- 昭和35年
- 昭和36年
- 昭和37年
- 昭和38年
- 昭和39年
- 昭和40年
- 昭和41年
- 昭和42年
- 昭和43年
- 昭和44年
- 昭和45年
- 昭和46年
- 昭和47年
- 昭和48年
- 昭和49年
- 昭和50年
- 昭和51年
- 昭和52年
- 昭和53年
- 昭和54年
- 昭和55年
- 昭和56年

町制施行（柚野・八坂・出雲・島地・串の5ヶ村合併）

町消防団初の消防出初式を堀中学校で挙行

佐波川ダム竣工

防石鉄道堀駅が新装し営業を開始

八坂中学校・堀中学校が竣工

町内全域に集中豪雨（被害総額2億3千万円）

徳地町役場庁舎が完成

町議会議員選挙区が小選挙区から全町一選挙区へ

豪雨のため串中屋体が倒壊（死者2名、住家全半壊百戸等 被害総額1億3百万円）

防府5堀間の防石鉄道が営業を廃止 45年の歴史に幕を閉じる

鯖地区に定期バス路線開通

初の誘致企業として徳地縫製工業（株）の立地が決定

住民基本台帳制度施行

大原湖に愛鳥林を設定することが決定

徳地人形浄瑠璃保存会が結成

第1回防府読売マラソン大会（下右田く下畑折返し）開催

県道防府阿東線が開通

中央小学校開校（御所野、堀、伊賀地、岸見の4校を統合）

山村開発センター竣工

町内初のプール完成

白谷養鶏団地が完成

全町が市内通話域になる

町長選挙で長嶺政男氏5選

手漉き和紙の千々松清二郎さんが伝統手工芸功勞で褒賞受賞

長者ヶ原が国立第12少年自然の家建設候補地に決定

中国自動車道が開通 徳地ICで開通行事

町長選挙で新町長に井上平司氏



▲昭和59年 森文部大臣が長者ヶ原を視察



▲昭和52年 上村にマナズル4羽渡来



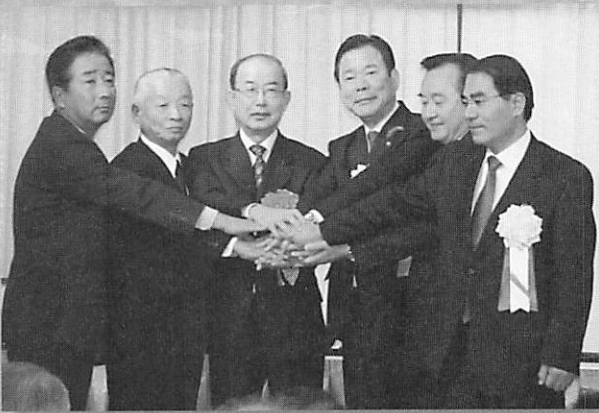
▲平成3年 南大門オープン



▲昭和55年 町制施行25周年記念でタイムカプセル埋設



▲平成2年 皇太子行啓



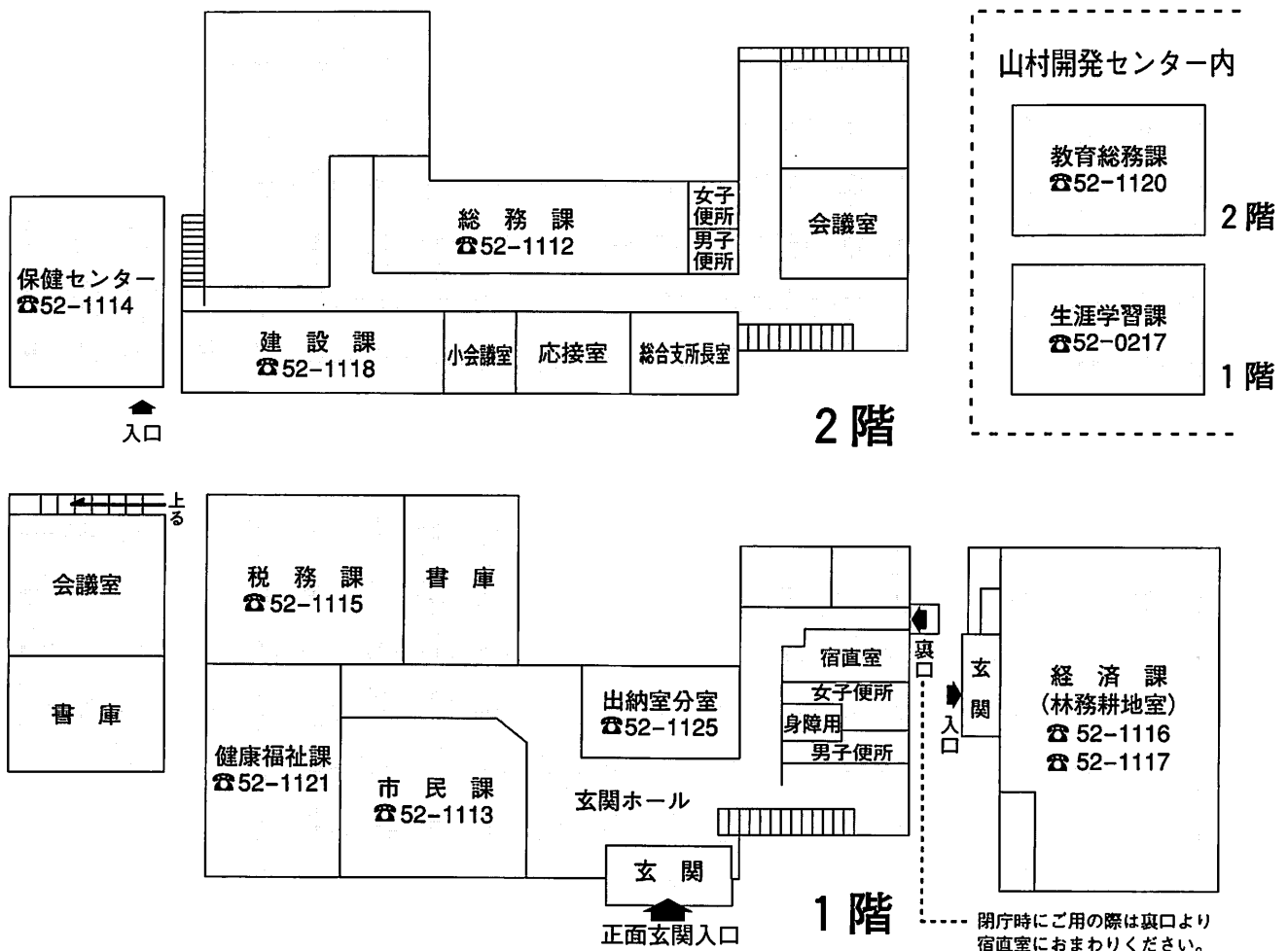
▲平成16年 山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町との合併協定に調印



▲平成7年 NHKのど自慢

- |       |   |
|-------|---|
| 昭和57年 | 長者ヶ原グリーンスポーツ広場が完成   |
| 昭和58年 | 町民体育館完成   |
| 昭和59年 | 森文部大臣が国立少年自然の家建設予定長者ヶ原を視察   |
| 昭和60年 | 徳地町保健センター開所   |
| 昭和61年 | 串法光寺阿弥陀堂仏像5体が県有形文化財に指定  |
| 昭和62年 | 島地川橋開通式   |
| 昭和63年 | 地籍調査事業開始  |
| 平成元年  | 国立山口徳地少年自然の家開所  |
| 平成2年  | 皇太子殿下中世史研究のため町内を行啓される   |
| 平成3年  | 徳地町特産品展示販売所「南大門」営業開始  |
| 平成4年  | 佐波川関水公園で「重源の里筏下り体験成人式」を実施   |
| 平成5年  | 町長選挙で新町長に伊藤青波氏  |
| 平成6年  | 徳地人形浄瑠璃保存会に文部大臣賞  |
| 平成7年  | 町制施行40周年記念「NHKのど自慢」公開録画   |
| 平成8年  | 国道489号徳地バイパス、ゆずりはトンネル開通   |
| 平成9年  | 特定公共賃貸住宅「伊賀地団地」入居者募集開始  |
| 平成10年 | 重源の郷体験交流公園・大原湖キャンプ場・町文化ホール合同竣工式   |
| 平成11年 | 防府警察署徳地交番の竣工式   |
| 平成12年 | 滑三本杉が林野庁指定「森の巨人たち100選」に選ばれる   |
| 平成13年 | 山口さらら博開催  |
| 平成14年 | 柚野木小学校を開校   |
| 平成15年 | 山口県東部合併協議会の設置   |
| 平成16年 | 鳥インフルエンザによる鶏卵異動制限   |
| 平成17年 | 山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町との合併協定に調印<br>徳地町斎場が竣工<br>9月30日をもって、山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町を廃止し、10月1日より山口市を設置 |

# 山口市徳地総合支所庁舎のご案内



	課・室	電話番号	主な事務
徳地総合支所	総務課	☎52-1112	文書管理、危機管理、防災、交通安全、庁舎管理、自治会、市民相談、消費者相談、地域振興、まちづくり審議会、文化振興
	税務課	☎52-1115	市税の賦課・徴収
	市民課	☎52-1113	戸籍、住民登録、印鑑登録等受付、火葬許可、国民健康保険、国民年金、老人医療、福祉医療、環境衛生、人権相談
	健康福祉課	☎52-1121	高齢者福祉、障害者福祉、児童福祉、母子福祉、保育園、介護保険、健康づくり、母子保健、生活保護相談
	経済課	☎52-1117	農業の振興、観光振興、地籍調査、※農業委員会事務取り扱い
	林務耕地室	☎52-1116	林業の振興、自然保護、土地改良事業、農道・用排水整備
	建設課	☎52-1118	道路整備、道路・河川維持管理、市営住宅の管理、公園、交通施設、開発行為等受付、法定外公共物の管理、農業集落排水
	出納室分室	☎52-1125	公金の出納・保管、支払審査
教育委員会事務局支所	教育総務課	☎52-1120	学校の管理・運営、教育施設の管理
	生涯学習課	☎52-0217	生涯学習、青少年教育、文化振興、スポーツ振興、文化財保護、体育施設の管理

※農業委員会事務局は経済課に窓口をおき、農地法関係の受付事務を行います。



# 閉町の「ごあいさつ」



徳地町長

伊藤 青波

今から五十年前の昭和三十年四月一日、出雲、八坂、島地、柚野、串の旧五ヶ村が合併して徳地町になりましたが、初代伊藤徳地町長の挨拶が昭和三十年六月十五日発行の第一号町報に載っております。そのなかで、「理想郷実現は、町民が一致協力、愛町の行動を強化する事より外ありません」と言われています。

この間、合併当時二万人近くを数えました人口も、その後全国的な社会・経済構造の変化にともない八千人余と減少しましたが、一方では産業、交通通信体系、生活環境、教育・文化など定住のための基盤整備は飛躍的に進展をみる事ができました。

等では、地方自治体は住民の福祉の増進を図るため、住民の協働を基本として、地域における行政を実施する役割及びそれらに係わる責任を担う。

住民は、その属する地方自治体の役務の提供をひとしく受ける権利を有し、その負担を公正に分任する義務を負う。住民はその属する地方自治体の運営には参画するよう努めるものとする。」とあります。まさしく今回の合併も地方分権が進むなかでの合併であり、合併しただけで新市・徳地地域が良くなるものではありません。新市・徳地地域を活性化し、皆さんが安心して暮らしていただけるためには、先の憲法改正草案の中には、先ずように、行政もそして住民の皆さんが、自らが責任を持って自分達が住んでいる地域は自分達が良くするんだという気持ちと、行動が必要です。

を拓くプロジェクトがありま  
すが、徳地町では「里山交流  
プロジェクト」としてあります。  
このプロジェクトは、豊かな  
自然を背景に、自然と身近に  
ふれあえる空間の創出を図る  
とともに、自然を活用した農  
林業の高度化を図りながら、  
地域で育まれた食文化の発信  
施設や地域産物の直売所、加  
工工房の整備や農林業・農山  
村資源等を活用した他地域と  
の交流を促進するものです。  
また、自然と人の調和した地  
域コミュニティの活性化を図り、  
地域全体で魅力ある里山を形  
成していきます。

『ふるさととは 緑の山につつまれて 佐波川の瀬にわかあゆのおどる清らなところだ この山河に風かおり 人の心のなごみあう みんなの心のなごみあう ああうるわしい 徳地町』これは徳地町民歌の歌詞ですが、新「山口市」誕生において、郷土を愛し、徳地町の発展を願い、あらゆる分野で地域振興にご尽力いただいた先人・諸先輩方をはじめ、町民の皆様、関係機関の皆様にご心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。そして、私たち故郷、徳地を心の拠りどころとして、新「山口市」の発展・活性化を皆さんとともに進めていけたらと思います。



徳地町助役

三戸 基文

徳地地域文化の芽生え新興の礎えといわれます重源上人冥界後八百年、徳地町制施行五十周年、合併を選択し問近に迎えます新「山口市」。本年は本町に取りましては誠に大きな節目の年であります。特に、徳地町となりまして五十年の行政の中で微力ながら四十二年間職員・助役として

て奉職させて頂きました。この間、町民の皆さま方に多大な協力とご理解を頂き深く感謝し御礼を申し上げます。合併の暁には新「山口市」となりますが、十九万市民の融和と一体感の醸成、さらに山口市徳地地域の躍進を皆さまと共に祈念し閉町の挨拶と致します。



徳地町教育長

山本 雅一

「終わりは始まりの第一歩」そのように考えれば、今回の新市への移行は「創造」へ向けて力強く歩みだす第一歩ととらえるべきと考えます。教育におきまして、十月からは小学校三十校、中学校十五校となる山口市の中で評価をされることとなります。各校におきまして、新たな挑戦の始まりであり、まさに「始ま

りの第一歩」です。しかし、心配は要りません。町内の学校はその中であって「光り輝く存在」となるはず。終わりになりましたが、今後は一市民として徳地の教育を見守って参りたいと思っております。この三年間、町民の皆様から頂きましたご厚情に心から感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



表紙・裏表紙の写真は、町内の小学6年生のみなんです。ご協力ありがとうございました。

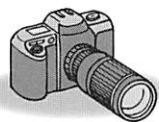
編集後記

長い間ご愛読いただきありがとうございます

「広報とくち」は、昭和三十年に創刊して以来、今回で六百号を数えます。この号をもちまして徳地町が発行する広報紙は最後となりました。多くの方のご協力を得ながら、ここまで発行できましたことに心より感謝申し上げます。

最後に、長い間広報とくちをご愛読いただき誠にありがとうございました。

また、山口市誕生後は「市報やまぐち」として生まれ変わり、毎月一日と十五日に発行します。これからも変わらず、ご協力とご愛読のほど、よろしくお願ひします。



(徳地町広報担当 民井佳代)